

小学校国語科 授業改善事例Ⅰ

授業改善事例Ⅰ 授業改善の実際編

第4学年「文章の構成を考えて物語をつくろう」（全8時間）

1 本单元における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善のアプローチ

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の1つのアプローチとして、「児童の学びの姿」と児童の学びの姿を実現する「教師の働きかけ」の双方の視点から授業改善を図ることが大切です。

本单元においては、次のような視点で授業改善を図ります。

	児童の学びの姿	本单元における教師の働きかけ
「主体的な学び」	見通しをもつ。	・言語活動のモデルを示す。 ・単元の学習活動を確認し、児童が学習計画を立てる場面を設定する。
「対話的な学び」	児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。	・目的に応じて、ペアやグループなど対話の形態を選択できる機会を提供する。
「深い学び」	「言葉による見方・考え方」を働かせる。	・児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めながら理解したり表現したりする場面を設定する。

2 本单元の概要

※本单元の詳細はこちら [授業改善事例Ⅰ 学習指導計画編](#)

(1) 単元の目標

- ① 漢字と仮名を用いた表記、送り仮名の付け方、改行の仕方を理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。
〔知識及び技能〕(1)ウ
- ② 相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア
- ③ 書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ
- ④ 言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

(2) 単元で取り上げる言語活動

文章の構成を工夫して物語をつくる。

（関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ）

(3) 本单元の指導と評価の計画（全8時間）

時	主たる学習活動	評価する内容	評価方法
1	○相手や目的を意識して、単元の学習活動の見通しをもち、学習計画を立てる。		
2 ・ 3 ・ 4 ・ 5	○始まりの場面と終わりの場面の挿絵を基に、物語の設定について考える。 ○物語の展開部の内容について想像し、【組み立て図】に整理する。	[思考・判断・表現①] [思考・判断・表現②]	1人1台端末の記録又はノート・観察 1人1台端末の記録又はワークシート・観察
6 ・ 7 ・ 8	○【組み立て図】を基に、物語を書く。 ○物語の文章全体を整える。 ○書いた物語を友達と読み合い、感想を伝え合う。	[知識・技能①] [主体的に学習に取り組む態度①]	1人1台端末の記録又はワークシート 1人1台端末の記録又はワークシート・観察

(2) 児童の「児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める」姿を実現する教師の働きかけ

児童の学びの姿

児童同士の協働や、教職員や地域の人との対話を通じ、自分の考えを広げ深める。

「対話的な学び」の実現に向けて

教師の働きかけ

目的に応じて、ペアやグループなど対話の形態を選択できる機会を提供する。

児童が自分の考えを広げ深めることができるようにするために、目的に応じて、ペアやグループなど対話の形態を選択できる機会を、単元を通して提供することが大切です。本単元では、大型モニター等の画面一覧機能を用いて児童全員の【組み立て図】を提示し、目的に応じた交流の手掛かりとすることで、児童が必然性をもった対話をするができるようにします。

《物語の展開部の内容について想像し、【組み立て図】に整理する場面（第3～4時）》



自分の学習計画を見て、今日の学習活動を確認しましょう。それぞれの学習を進める中で、必要なときは、大型モニターに示している全員の【組み立て図】を参考に、友達の考えを聞いたり、比べたりしていいですよ。

児童Bの学習活動

山場の場面と変化のきっかけを考える。



（大型モニターを見ながら）
山場の場面につながる変化のきっかけを考えたいな。自分で考えたもののほかに、どのような考えがあるか知りたいな。
AさんやDさんが、同じ絵を選んでいいるから聞いてみよう。



（Aさん、Dさんと集まって）
私は、水たまりを見付けたという変化のきっかけにしたよ。みんなは？

私は、おばあちゃんに、新しい傘を買ってもらったことにしたよ。



いいね。ぼくは、大きな虹を見たことにしたよ。



同じ絵を選んでいても、変化のきっかけは、いろいろと考えられるんだね。

いろいろな友達の考えを聞いて、変化のきっかけは考えられましたか。



はい。友達の考えを聞いたら、新しい考えが浮かんできました。

友達の考えを聞くことで、自分の考えを広げることができましたね。



新しく考えた変化のきっかけを基に、おもしろい山場の場面を考えることができそうです。

児童Cの学習活動

山場の場面を再考し、山場以外の出来事を考える。



（Dさんと大型モニターを見ながら）
山場の場面をもっと大きな変化にするために、自分と違う絵を選んだ友達と、山場の場面を比べたいな。



ぼくは、Cくんと違う絵を選んでいいるよ。山場の場面を比べてみようか。



ぼくは、始まりの場面では地味と思っていた魚が、自分がきらきらと光っていることに気付くという山場の場面を考えたいよ。

ぼくは、始まりの場面では「雨が嫌い」という言葉を使ったけど、山場の場面では、反対の意味の「雨が好きになった」という言葉を使ったよ。



なるほど。反対の意味の言葉を使うことで、大きな変化を表すことができるね。ぼくも、「地味」と反対の意味の言葉を山場の場面に使ってみようかな。

Dさんの考えを聞いて、山場の場面を考え直すことができましたか。



はい。反対の意味の言葉を使っているところが参考になりそうです。

友達の考えと比較することで、言葉に着目して自分の考えを深めることができましたね。



大きな変化を表す山場の場面を考えることができそうです。

児童が児童同士の協働を通じ、自分の考えを広げ深めることができるようにするために、目的に応じて、ペアやグループなど対話の形態を選択できる機会を、単元を通して提供することが大切です。

(3) 児童の「『言葉による見方・考え方』を働かせる」姿を実現する教師の働きかけ

児童の学びの姿

「言葉による見方・考え方」を働かせる。

「深い学び」の実現に向けて

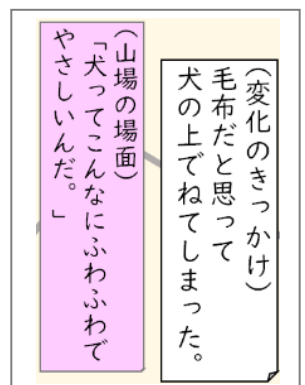
教師の働きかけ

児童が学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めながら理解したり表現したりする場面を設定する。

児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようにするために、単元の終末に向けて、言葉への自覚を高めながら、理解したり表現したりする場面を設定することが大切です。その際、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりします。本単元では、言語活動のモデルの一部を例示し、児童が言葉に着目して、【組み立て図】を見直す場面を設定することで、児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようにします。

《物語の展開部の内容について想像し、【組み立て図】に整理する場面（第5時）》

学級全体で、言語活動のモデルの一部（資料6）を基に【組み立て図】の見直しを確認する。



資料6 言語活動のモデルの一部



【組み立て図】で、例えば「毛布だと思って、犬の上で寝てしまった」ことをきっかけに、「犬ってこんなにふわふわでやさしいんだ」という台詞を考えてみました。言葉に着目して、話のつながりを見直してみましょう。

「毛布」と「ふわふわ」という言葉は、つながっていると思います。

でも、「ふわふわでやさしい」の「ふわふわ」と「やさしい」という言葉は、つながらないような気がします。

ぼくは、「犬の上でねてしまった」という言葉から、寝てしまうくらい「気持ちよかった」と思うから、「ふわふわで気持ちいい」という言葉を使った方が、話がつながると思います。



このように、言葉に着目すると、話がつながっているかを見直すことができますね。では、自分の【組み立て図】を見直しましょう。



児童B



児童C



児童D

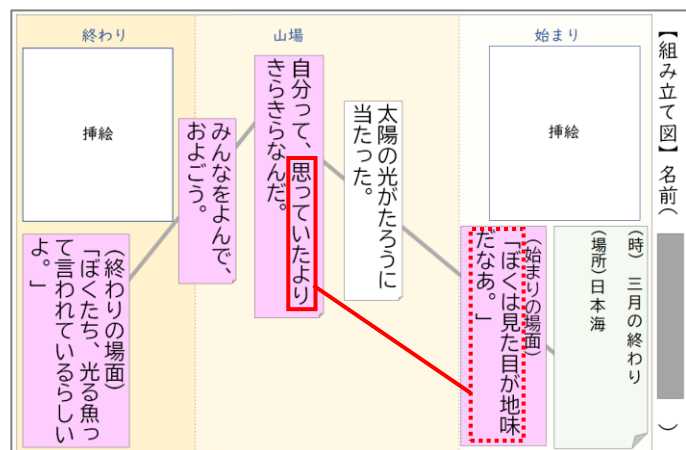
各自で、【組み立て図】を見直す。

まずは、始まりの場面の「ぼくは見た目が地味だ」と山場の場面の「自分って、きらきらなんだ」のつながりを、言葉に着目して見直そう。



自身の【組み立て図】見直す。

反対の意味の言葉を使ったつもりだったけど、「地味」と「きらきら」という言葉がつながらない気がするな。ちょっと友達に聞いてみよう。



資料7 児童Cが言葉を付け加えた1人1台端末の画面



児童D

確かに、話がつながらないような気がするね。始まりの場面では、中心人物は、自分の見た目が地味だと思っていたのよね…。



児童A

それなら、「自分ってきらきらなんだ」と書いているところに、思っていたよりという言葉をつけ加えたらどうかな。始まりの場面ともしっかりつながると思うよ。

思っていたよりという言葉をつけ加えれば、始まりの場面からの気持ちの変化がよく分かるね（資料7）。



児童が「言葉による見方・考え方」を働かせることができるようにするために、児童が言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目し、捉えたり問い直したりして、見直す場面を設定することが大切です。